

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

資料1

1 重点的に取り組む施策
(1)藤沢ブランドの創出
【施策の目的】

市内には、トマト・キャベツ・ぶどう・梨・豚肉・牛肉・しらす・はまぐりなど市民に一定の認知度がありブランド化された農水産物がありますが、さらに藤沢ブランドとなる新たな製品の開発などに取り組み、販路の拡大につなげるとともに、安定生産を図り付加価値向上につながる競争力のある産地づくりを推進します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(新)ア 藤沢ブランドとなる新たな一次製品の創出 市は、JAさがみや漁業協同組合、生産者等と連携し、地域の特性等を活かした藤沢ブランドとなる新たな一次製品の創出に努めます。	【JAさがみ】 新たな藤沢ブランド化の候補として「種なしピーマン」の普及・販売について協議を行った。	【JAさがみ】 マーケットインに基づく「ビーツ」の栽培・販売試験を行った。飲食店、横浜港客船、名古屋高級スーパーに湘南野菜として供給を行った。 【地産地消推進事業実行委員会】 藤沢産農水産物の付加価値を高めるため、藤稔をかながわブランドに登録するとともに、のぼり旗を作成し販促を支援した。
2	イ 藤沢産農水産物を利用した加工品の開発支援 市は、藤沢産農水産物の付加価値を高め、ブランド化につながる6次産業化の取組を推進し、生産者等が行う藤沢産農水産物を利用した加工品の開発を支援します。	【JAさがみ】 藤沢産米に付加価値を付ける取組みとして、酒米の生産を支援した。 【地産地消推進事業実行委員会、農業水産課】 藤沢産ワインの商品化に向け、メイヴ(藤沢産ワイン用ブドウ)の加工に係る費用を一部助成した。 構造改革特区制度を活用し、市内に醸造所を設けることを見据え、先進都市の視察を行った。	【地産地消推進事業実行委員会 農業水産課】 さがみ地粉の会が取り組む、かながわブランド「津久井在来大豆」の加工品開発費用の一部を地産地消推進事業実行委員会として補助した。
3	(新)ウ 未利用魚の認知度向上 市は、漁業協同組合や関係機関と連携し、未利用魚を活用した加工品の開発やイベントにおける販売や食材としての使用などにおいて利用促進を図ることにより、未利用魚のPRに努めます。	【地産地消推進事業実行委員会、江の島片瀬漁協、学校給食課】 水産加工会社や食材卸会社と協議し、江の島沖定置網で獲れた市場価値の乏しい魚(ワカシ)をすり身加工し、小学校給食で提供する体制を構築した。しかし、まとまった量のワカシが漁獲されず、給食提供は出来なかった。	【江の島片瀬漁協 観光課】 藤沢産農水産物の販売のほか、老若男女問わず楽しめるイベントを開催することで、未利用魚の認知及び活用をはじめ、藤沢産農水産物の利用促進と漁港の活性化を図った。年5回(6日間)開催来場者延べ人数 9,493人 【地産地消事業実行委員会 江の島片瀬漁協 学校給食課】 未利用魚をすり身に加工し、小学校給食で提供する体制の構築をしたが、漁獲量が乏しく、小学校給食での提供には至らなかった。
4	(新)エ 産地競争力の強化 市は、農水産物の安定生産と付加価値向上を図るため、競争力のある農水産業の産地づくりを推進します。そのため、機械や生産資材の導入など、産地競争力の強化の取組を支援します。	【農業水産課】 バッテリー動噴導入事業(補助額:717,000円) マルチャー導入事業(補助額:264,000円) 堆肥散布車導入事業(補助額:5,417,000円)	【農業水産課】 バッテリー式背負動噴導入事業 補助額:1,490,000円 コーティングワイヤー導入事業 補助額:1,894,000円 露地野菜の新規作用性薬剤導入事業 補助額:218,000円 LED防蛾灯導入事業 補助額:1,378,000円 バッテリー式コンパクトキャリー動噴導入事業 補助額:478,000円 細霧冷房扇風機導入事業 補助額:471,000円 枝豆脱莢機導入事業 補助額:1,062,000円 ビニールハウスフィルム張替え補助事業 補助額:19,087,000円
《目標》	目標値 :かながわブランドへの登録件数 ・現状(令和3年11月) 18件 ・5年後目標(年1件増加) 23件 うち登録名に「藤沢・ふじさわ」が入っているもの 5件	目標値 :かながわブランドへの登録件数 令和6年中のかながわブランドへの登録は無し。 ・現状(令和7年3月) 19件 ・目標(年1件増加) 23件 うち登録名に「藤沢・ふじさわ」が入っているもの 5件	令和7年度は新たに「藤沢生まれの藤稔」を登録。 現在(R)のかながわブランドへの登録件数 20件 うち登録名に「藤沢・ふじさわ」が入っているもの 6件

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 重点的に取り組む施策
(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化
【施策の目的】

給食において、藤沢産農水産物等を活用することは、食に関する知識や農水産業に関する理解を深め、食育の推進を図るとともに、生産者と「顔が見える」関係づくりを通じた地域の活性化、農水産物等を供給してくれる人たちへの感謝の心を育むなどの様々な効果が期待できます。そのため、市は、給食における藤沢産農水産物等の利用品目の拡大及び供給量の増加に努めます。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(新)ア 藤沢産米の利用促進 市は、JAさがみ及び水稻生産者などと連携し、給食の主食のひとつである米について、藤沢産米の供給体制を見直し、使用量の増加に努めます。	【JAさがみ】 藤沢市学校給食会および市内事業所に向け、玄米2419袋(袋/30k)の集荷を実施。前年比101.5%。 市内小学校・特別支援学校36校へ3433袋(白米袋/10k)を出荷。 市内中学校用に456袋(白米袋/10k)を出荷。 市内業者へ2264袋(白米袋/10k)を出荷。 【学校給食課】 藤沢産米を小学校・特別支援学校では年間18回、中学校では10回使用した学校給食を提供。玄米ベースで50トン使用した。 【保育課】 藤沢産農水産物の利用促進、市内農業への理解を深めるため実施。 公立保育園給食に藤沢産米を利用。保育園児童及び保護者へ周知し、理解を深めた。	【JAさがみ】 藤沢市学校給食会および市内事業所に向け、玄米1,691袋(袋/30k)の集荷を実施。前年比69.9%。【玄米価格高騰のため、取扱数量が減少】 市内小学校・特別支援学校36校へ2,592袋(無洗米/10k)を出荷。 市内中学校用に287袋(白米/10k)を出荷。 市内業者へ112袋(白米/10k)を出荷。 【学校給食課】 藤沢産米を小学校・特別支援学校では年間17回、中学校では5回使用した学校給食を提供。玄米ベースで33トン使用した。 【保育課】 藤沢産農水産物の利用促進、市内農業への理解を深めるため実施。 公立保育園給食に藤沢産米を利用。保育園児童及び保護者へ周知し、理解を深めた。
2	イ 藤沢産農水産物等の利用促進 市は、給食で多く使用される青菜(小松菜、ほうれん草)、キャベツ、ネギ、ニンジン、ダイコンなどについて、積極的に藤沢産のものを使用するよう努めます。また、藤沢産農水産物の中で供給量が不安定で流通が少ない大豆・小麦・果物・しらすなどについて、関係機関と連携し、給食へより多く供給できるよう努めます。	【JAさがみ】 地産地消向上のため、モデル校(俣野小学校・亀井野小学校)へ農産物の納入を実施。 【地産地消推進事業実行委員会、藤沢市畜産会】 御所見小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。 【学校給食課】 藤沢産食材を2品以上使用した給食で「ふじさわランチ」として小学校・特別支援学校では1校あたり年間11回、中学校では年間6回行った。 【保育課】 藤沢産食材の利用促進 藤沢市立またの保育園、20回 藤沢市立藤沢・辻堂・鵜沼・藤が岡・善行・明治・浜見・湘南台・善行乳児・柄沢・しづやがはら・高山・小糸保育園、各1回	【JAさがみ】 ●市内の卸売市場・生産者と連携し、学校給食向けの出荷調整を行い市場出荷を通じた学校への農産物の供給を実施した。(カブ、ブロッコリー) ●地産地消向上のため、モデル校(俣野小学校・亀井野小学校)へ農産物の納入を拡大。(小松菜・ほうれん草・きゅうり・大根・キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー・かぶ・エダマメ・レタス・泥葱・トマト)12品目 【地産地消推進事業実行委員会】 大清水小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。 【学校給食課】 藤沢産食材を2品以上使用した給食を「ふじさわランチ」とし、小学校・特別支援学校では1校あたり年間平均21回、中学校では年間6回行った。 【保育課】 藤沢産食材の利用促進 藤沢市立またの保育園、34回 藤沢市立藤沢・辻堂・鵜沼・藤が岡・善行・明治・浜見・湘南台・善行乳児・柄沢・しづやがはら・高山・小糸保育園、各5回程度

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
3	ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進 市は、給食用農水産物等を供給する生産者、加工業者及び流通業者と園児・児童・生徒との交流を通じて、地域の農水産業の理解促進及び食育の推進を図ります。また、給食用農水産物等を供給する生産者等に対する感謝の心を育むよう努めます。	【学校給食課】 地産地消モデル校4校（御所見小、中里小、俣野小、亀井野小）で地場産物の活用を推進した。	【学校給食課】 地産地消モデル校4校（御所見小、中里小、俣野小、亀井野小）で地場産物の活用を推進した。
3	(新)エ 給食を通じた家庭への情報発信 市は、給食で藤沢産農水産物等を使用するだけでなく、家庭においても、藤沢産農水産物等についての理解が深まり、利用拡大につながるよう家庭向けの情報発信に努めます。	【学校給食課】 藤沢で採れる食材や、「ふじさわランチ」について、献立表や給食だより等を通して情報発信を行った。	【学校給食課】 藤沢で採れる食材や、「ふじさわランチ」について、献立表や給食だより等を通して情報発信を行った。
4	オ 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用 第3期計画及び第4期計画において、地産地消モデル校を選定し、学校及び保育園周辺で生産されている農産物を給食に供給するシステムを構築してきました。本計画（第5期）においても、地産地消モデル校の取組を継続し、生産者や関係機関と連携を図り、学校及び保育園周辺で生産されている農産物の給食への供給量の増加に努めます。	【保育課】 藤沢産食材の利用促進 公立保育園給食の食材として藤沢産野菜及び果物を積極的に利用した。 （小松菜・ほうれん草・きゅうり・大根・キャベツ・なす・里いも・ブロッコリー・かぶ・とうもろこし・そらまめ・おくら・にんじん・なし）14品目 【保育課、地産地消推進事業実行委員会】 藤沢市立明治・またの保育園で米生産者から作業等の講話やバケツ稲の栽培、収穫を通して、農業への理解を深めた。	【保育課】 公立保育園給食の食材として藤沢産野菜及び果物を積極的に利用した。 （小松菜・ほうれん草・きゅうり・大根・キャベツ・なす・かぶ・とうもろこし・おくら・さつまいも・長ねぎ）11品目 【保育課、地産地消推進事業実行委員会】 藤沢市立高山・またの保育園で米生産者から作業等の講話やバケツ稲の栽培、収穫を通して、農業への理解を深めた。 【地産地消推進事業実行委員会】 藤沢市立滝の沢小学校において、児童と生産者の交流を通じ、地産地消の理解を深めるため、瀬郷圃場にてニンジンの収穫体験を実施するとともに、学校において地産地消マルシェを開催した。
《目標1》	目標値：藤沢産米の使用数量（精米ベース） （小学校及び特別支援学校） ・現状（令和2年度実績）36校 7回 12, 350kg ・5年後目標 36校 22回 38, 750kg （中学校） ・現状（令和2年度実績）19校 2回 760kg ・5年後目標 19校 7回 2, 660kg （保育園） ・現状（令和2年度実績）1園 20kg ・5年後目標 14園 1, 000kg	目標値：藤沢産米の使用数量（精米ベース） （小学校及び特別支援学校） ・36校 18回 34, 330kg （中学校） ・19校 10回 4, 560kg （保育園） ・14園 1, 685kg	目標値：藤沢産米の使用数量（精米ベース） （小学校及び特別支援学校） ・36校 17回 26, 540kg （中学校） ・19校 5回 2, 870kg （保育園） ・13園 2, 730kg
《目標2》	目標値：学校給食における青果物の藤沢産使用割合 （小学校及び特別支援学校） ・現状（令和2年度） 17. 7％ ・5年後目標（年1％増加） 22. 7％	目標値：学校給食における青果物の藤沢産使用割合 （小学校及び特別支援学校） ・現状（令和6年度） 12. 2％ ・5年後目標（年1％増加） 22. 7％	目標値：学校給食における青果物の藤沢産使用割合（出荷重量の割合） （小学校及び特別支援学校） ・現状（令和7年度） 16. 2％ ・R8年度目標（年1％増加） 22. 7％

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 重点的に取り組む施策
(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化
【施策の目的】
藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座を充実させるとともに、食育・健康施策との連携を図り、地産地消の普及啓発及び藤沢産農水産物等への理解促進に努めます。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(新)ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等 を活用したイベント・講座の開催 市及び地産地消推進事業実行委員会は、コロナ下の 新しい生活様式における効果的なイベント・講座の実 施方法を検討し、イベント・講座を通じて藤沢産農水 産物等及び地産地消の普及啓発に努めます。	【JAさがみ、地産地消推進事業実行委員会】 花育体験イベントの開催 【JAさがみ】 JA関連企業「シェイエーアメニティーハウス株式会社」と連携し、JAさがみ管内 のアメニティーハウス賃貸管理物件利用者へ花育体験イベント「寄せ植え体験」 を実施し、市内花卉の啓発を行った。 【生涯学習総務課】 ・藤沢市生涯学習大学 放送通信コース「ふじさわの有機農業について学ぼう！」 藤沢の農業について理解を深め、地産地消を推進することを目的として、レディ オ湘南によるFMラジオ放送通信講座を開催した。あわせて、放送終了後にス クーリング(農業体験)を開催した。 10/15～12/3(FMラジオ放送 全8回)、12/7(スクーリング(農業体験)) 【地産地消推進事業実行委員会】 ・農薬や化学肥料に頼らず作った藤沢産農作物マルシェの開催 【藤沢市畜産会】 ・ふじさわ畜産ふれあい祭りの開催 【農業水産課】 ・『かながわ畜産の日フードフェス2024in湘南台』『第33回かながわトントンま つり』の共催	【JAさがみ】 《花育体験の開催》 12月7日(日)神台公園にて小中学生を対象に花の寄せ植え体験が開催され た。定員20組に対し、申込みが33組45名の応募があり、抽選の結果20組28 名の参加者で実施した。 【生涯学習総務課】 ・藤沢市生涯学習大学 放送通信コース「ふじさわの漁業について学ぼう！」 藤沢の農業について理解を深め、地産地消を推進することを目的として、レディ オ湘南によるFMラジオ放送通信講座を開催した。あわせて、放送終了後にス クーリング(漁港見学)を開催した。テキスト申込者63人、スクーリング参加者11 人 6/10～8/2(FMラジオ放送 全8回)、9/20(スクーリング(漁港見学)) 【地産地消推進事業実行委員会】 農薬や化学肥料に頼らず作った藤沢産農作物マルシェ開催時に抽選会を開 催。藤沢産の商品を中心に景品を用意し、参加者へ藤沢産農産物を周知した。 【観光課】 北部観光の活性化と新たなコンテンツの発掘を図るため「藤沢市中北部の魅力 を体験しながら満喫を！！」バスモニターツアーを開催した。2日間 参加者は 39人。 【青少年課】 藤沢ごしょみ産アウトドアクッキングとして、藤沢御所見産の豚肉や野菜をたき 火で調理・食べることにより、地元藤沢の魅力、地産地消の魅力や地産地消の 価値を体感することを目的に実施した。参加者20人。 青少年体験学習事業「ふじメシ」として、藤沢産の野菜を収穫後、仲間と協力し、 オリジナルピザを作り、地域の農家と交流を深めた。 【農業水産課】 ・『かながわ畜産の日フードフェス2025in湘南台』『第34回かながわトントンま つり』の共催 ふじさわ元気バザール野菜市にて買い物をされた方に新米を配布・PRした。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
2	イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催 市は、地産地消を推進する上で、消費者と生産者が「顔が見える」関係を構築することは相互理解につながるため、関係機関と連携し、農産物の収穫体験や魚介類の放流体験などの各種イベントや講座、品評会等を開催し、生産者と消費者の交流促進に努めます。	【農業水産課】 ①農業者を講師に、津久井在来大豆を種まきから収穫まで一連の作業を体験する機会を提供し、農業理解を図った。 時期7月～1月、全7回、受講者21人 ②農産物の収穫体験と生産者との交流を通じ、農業生産の実態から流通まで幅広く理解を得ることができた。 ・藤沢産のジャガイモと旬の野菜を収穫しよう！（参加者21人） ・藤沢産の枝豆と旬の野菜を収穫しよう！（参加者47人） ・トウモロコシと夏の藤沢産を収穫しよう！（参加者19人） ・トウモロコシと夏の藤沢産を収穫しよう！（参加者43人） ・トウモロコシと夏の藤沢産を収穫しよう！（参加者41人） ・藤沢産のサツマイモと旬の野菜を収穫しよう！（参加者13人） ・藤沢産のサツマイモとコスモスを収穫しよう！（悪天候のため中止） ・藤沢産のトマトとイチゴを収穫しよう！（参加者20人） ・藤沢産のトマトとイチゴを収穫しよう！（参加者19人） ③地引網漁業体験学習イベント 実施日7月25日 参加者数 118名 ④漁業体験イベント 実施日8月20日 参加者数 145名 【青少年課、農業経営士協議会】 少年の森の学習水田を利用し、農業への理解を深め、農耕に根ざした郷土の文化・生活習慣などを全5回（田植え⇒草取り⇒稲刈り⇒脱穀⇒餅つき）で学んだ。 ※脱穀は雨天中止（46組：111名参加） 【長後市民センター】 ①秋の事業『秋の大収穫祭・さつまいもほり』 ②『親子野菜づくり体験教室』 ③家庭菜園の始め方～ブチヴェール編～（農業が盛んな地域の特性を活かし、野菜作りを通して生産者との交流を図った。地域農家の指導のもと、プランター等でもできる野菜作りを学んだ。） 【湘南台市民センター】 ①親子ふれあい農園（農業体験イベントとして企画し、参加者はサツマイモの苗植え、草刈り、蔓返し、収穫を行った。） 【六会市民センター】 ①じゃがいも掘り ②さつまいも掘り ③むつ愛プロジェクト～伝統しめ飾りを守れ！古代米で稲作体験～ ④むつ愛プロジェクト～六会地区伝承しめ飾りづくり～ ⑤親子DE芋ほり&焼き芋づくり	【農業水産課】 ●農業者を講師に、津久井在来大豆を種まきから収穫まで一連の作業を体験する機会を提供し、農業理解を図った。 時期7月～1月、全7回、受講者 26人 ●農産物の収穫体験と生産者との交流を通じ、農業生産の実態から流通まで幅広く理解を得ることができた。 ・藤沢産のジャガイモと旬の野菜を収穫しよう！（参加者20人） ・藤沢産の枝豆とジャガイモを収穫しよう！（参加者43人） ・トウモロコシと夏の藤沢産（プラム）を収穫しよう！（参加者19人） ・藤沢産の夏野菜を収穫しよう！（参加者15人） ・ナシとリンゴを収穫しよう！（参加者25人） ・藤沢産のニンジンと冬の野菜を収穫しよう！（参加者20人） ・藤沢産の冬の野菜を収穫しよう！（参加者18人） ・藤沢産のトマトとイチゴを収穫しよう！（参加者20人） ・藤沢産のトマトとイチゴを収穫しよう！（参加者19人） ●地引網漁業体験学習イベント 実施日7月25日 参加者数 118名 ●漁業体験イベント 実施日8月19日 参加者数 125名 【住まい暮らし政策課】 湘南大庭ライフタウン周辺地区の地域交流の促進を目的に、Hub Session@湘南ライフタウンを開催。第1回に地域の生産者を招き、トークライブへの参加および藤沢産農産物の提供いただき、地場産物の周知並びに地産地消への理解促進を図った。 【JAさがみ みどり保全課】 春のみどりと花のまつりにおいて藤沢市産農産物や、市内養蜂園が加工した「湘南のハチミツ」を販売した。 【湘南台市民センター】 地域の食材を活用し、地域の店主による講座を通じて地産地消を促し、地域コミュニティの活性化を図るため、「秋の収穫体験とからだに優しいおやつ作り」を開催した。参加者は16人。 【六会市民センター】 ●「じゃがいも掘り」を開催し、地区内の野菜農家の畑へ行き、農産物を収穫体験するとともに生産者からの話を聞くことで、地域の農業や地理的特性について学んだ。 ●六会地区内の田んぼで田植えから収穫、保存、加工まで一連の作業を体験する「むつ愛プロジェクト～伝統しめ飾りを守れ！古代米で稲作体験」を開催した。自然とのふれあいを深め、農業や地域の歴史・伝統について学んだ。全6回（うち1回は荒天中止） ●六会地区内で育てられた藁を使い、地元の継承者から特徴的な藁の編み方や、しめ飾りに使う紙垂や橙、裏白等のいわれを学び、六会地区伝統しめ飾りを作成する「むつ愛プロジェクト～六会地区伝承しめ飾りづくり～」を開催した。 ●あわせて「われら少年少女体験隊」と題し、小学生参加者が田植えやしめ飾りづくりを行った。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
2	続 イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催 市は、地産地消を推進する上で、消費者と生産者が「顔が見える」関係を構築することは相互理解につながるため、関係機関と連携し、農産物の収穫体験や魚介類の放流体験などの各種イベントや講座、品評会等を開催し、生産者と消費者の交流促進に努めます。		【御所見市民センター】 生涯学習事業「秋のお楽しみウオーキング」地域内の寺社などを巡り、郷土歴史を学ぶウオーキング講座を実施。講座の中で、荒廃農地対策で運営している柿園にて、柿狩りを実施。参加者に、地域課題の共有化を図った。 【青少年課】 森のマルシェにおいて、地域の生産者の農産物を販売し、地域の生産者や、趣味・特技を持つ個人・団体が集い来場者・出店者。主催者が相互に交流しながら楽しめる機会を創出した。 【JAさがみ 青少年課】 少年の森の学習水田を利用し、農業への理解を深め、農耕に根ざした郷土の文化、生活習慣などを全5回（田植え→草刈り→稲刈り→脱穀→餅つき）で学んだ。参加者数 72組164名
3	ウ 食育・健康施策との連携 市は、食育・健康施策と連携し、藤沢産農水産物等及び地産地消の普及啓発に努めます。	【藤沢市食生活改善推進団体 四ツ葉会、健康づくり課】 藤沢市食生活改善推進事業 食育推進啓発講座（公民館において食育推進啓発講座を実施し、農水産物・食品の理解促進に努めた。） 「身体整える からとメニュー!!」「大根1本使い切り～和風・洋風・デザートにアレンジ～」 「パーティーサンドイッチで楽しもう」保存食で簡単メニュー」「ちょっとおしゃれに クッキング」 【JAさがみ（わいわい市藤沢店） 株式会社ベルグリーンワイズと提携し、毎月1回「ベジメーター」を用いて野菜摂取量を測定、不足する野菜量の摂取に向けて指導を行うとともに地域農産物の利用拡大を図った。	【藤沢市食生活改善推進団体 四ツ葉会、健康づくり課】 藤沢市食生活改善推進事業 食育推進啓発講座として、公民館において食育推進啓発講座を実施し、農水産物・食品の理解促進に努めた。
4	（新）エ 未来を担う若い世代への普及啓発 市は、関係機関と連携し、未来を担う若い世代に藤沢産農水産物等の魅力を知ってもらう取組や地産地消への理解が深まる取組を推進します。また、学生等が実施する地産地消の取組に対して支援します。	【湘南台市民センター】 ①地域福祉を支える会（地区内の小中特別支援学級に通う児童・生徒に地元で採れたジャガイモを提供した。）	【みどり保全課】 藤沢市民のうち、結婚・出産・パートナーシップ宣誓・家を新築された方を対象に、地元の生産者から仕入れた苗木やハーブ、観葉植物を計1,319株配布した。
5	オ 藤沢産農水産物等の表示 市は、生産者、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、加工業者等と連携し、安全・安心、新鮮、おいしい・旬の「藤沢産」を表すロゴマーク及びロゴマークシール等を活用し、「藤沢産」の認知度向上に努めます。	【農業水産課】 「藤沢産ロゴマークシール」を増刷し、生産者に配布した。 配布数：526,120枚 SNSを活用した藤沢産ロゴマーク認知度アップキャンペーンを実施した。	【農業水産課】 ●「藤沢産ロゴマークシール」を増刷し、生産者に配布した。 配布数：187, 440枚 ●SNSを活用した藤沢産ロゴマーク認知度アップキャンペーンを実施した。 【JAさがみ】 ●亀井野小学校（3年生対象）のトマト選果場視察受け入れ。 ●俣野小学校の授業に講師として参加し、学校給食に活用されている野菜の種類や生産者の栽培方法等をわかりやすく説明した。
《目標》	目標値：藤沢産ロゴマークの認知度 ・現状（令和2年度アンケート調査） 36. 4％ ・5年後目標（年2. 72％増加） 50. 0％	目標値：藤沢産ロゴマークの認知度 ・現状（令和6年度アンケート調査） 43. 7％ ・目標（年2. 72％増加） 50. 0％	目標値：藤沢産ロゴマークの認知度 ・現状（令和7年度アンケート調査） 43. 5％ ・目標（年2. 72％増加） 50. 0％

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 長期的に取り組む施策
(1)藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策
ア 安全・安心な藤沢産農産物の生産・流通体制の整備

【施策の目的】
消費者が求める安全・安心な農産物を提供するため、食品の安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組であるGAPや生産履歴の記帳の推進に努めます。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(ア) GAPの取組の普及 市は、JAさがみと連携し、GAPの普及啓発に努め、国際水準GAPに準拠した取組を行う生産者や生産者団体の拡大に努めます。	【JAさがみ】 各種会議等でJAさがみ「良い農場」点検項目シートの配布、回収点検、必要に応じて指導を実施。	【JAさがみ】 各種会議等でJAさがみ「良い農場」点検項目シートの配布、回収点検、必要に応じて指導を実施。
2	(新)(イ) 生産履歴の普及 市は、JAさがみと連携し、市内JA関連直売所における生産履歴の適正な記帳の普及啓発を促進します。また、生産者は、安全・安心な農産物の生産に努めるとともに、農産物を生産するに当たり、種まきから栽培、収穫、収穫後の加工など、それぞれの工程で行った作業を履歴として記録し、消費者等の求めに応じて提出できるように、適正な生産履歴の記帳に努めます。	【JAさがみ】 『よい農場』点検項目シートを活用した関係法令に基づく適正使用と保管管理の徹底 モバイル版生産履歴記帳システムの導入に向けた研究・調査	【JAさがみ】 ●『よい農場』点検項目シートを活用した関係法令に基づく適正使用と保管管理の徹底 ●モバイル版生産履歴記帳システムを導入し、栽培記録を管理した

イ 新鮮な藤沢産農水産物の提供
【施策の目的】
消費地に近い都市農業の強みを生かし、新鮮な藤沢産農水産物を消費者に提供します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(ア) 新鮮な藤沢産農水産物の提供 市は、JAさがみ、漁業協同組合と連携し、直売所や朝市等で新鮮な農水産物を消費者に提供する機会の拡大に努めます。	【湘南漁協、農業水産課】 ・藤沢産サンセットマルシェ 開催日:毎週月・水・金曜日 開催場所:市役所サンセット広場 【JAさがみ】 ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店:地場農畜産物の販売 米ディハウスくげぬま:地場農畜産物の販売 じものさん:毎週火曜日と金曜日、遠藤支店にて地場農産物の販売 ごしょみ～な:毎週火曜日、藤沢北宮農経済センター。 土曜日に御所見市民センターにて地場農産物の販売 農業まつり(ふれあいまつり)での農産物販売 【街なみ景観課】 桔梗屋マルシェ 【高齢者支援課】 やすらぎマルシェ(老人福祉センターやすらぎ荘において、地元野菜の販売をすることで、新鮮な野菜を購入いただき、地域の食への関心を高めてもらうことを目的に実施した。) 地域活動見本市(イベントの一部で野菜販売を行った。)	【農業水産課】 藤沢産サンセットマルシェ 開催日:毎週月・水・金曜日 開催場所:市役所サンセット広場 生産者から直接農産物を購入できる機会を提供し、藤沢産農産物をPRした。 【JAさがみ】 ●ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店:地場農畜産物の販売 ●米ディハウスくげぬま:地場農畜産物の販売 ●じものさん:毎週火曜日と金曜日、遠藤支店にて地場農産物の販売 ●ごしょみ～な:毎週火曜日、藤沢北宮農経済センター。 土曜日に御所見市民センターにて地場農産物の販売 ●農業まつり(ふれあいまつり)での農産物販売 【街なみ景観課】 ●桔梗屋マルシェを開催し、藤沢産農水産物の魅力を伝えた。 ●旧桔梗屋の保全活用事業の公募型プロポーザルにおいて、審査項目に「地産地消」を設け、地産地消を推進するよう誘導を図った 【高齢者支援課】 地域活動見本市において、イベントの一部で野菜販売を行った。

1	続(ア) 新鮮な藤沢産農水産物の提供 市は、JAさがみ、漁業協同組合と連携し、直売所や朝市等で新鮮な農水産物を消費者に提供する機会の拡大に努めます。	【藤沢商工会議所、農業水産課】 ・産業フェスタ 開催日：5/25, 26 開催場所：藤沢市民会館 ・ふじさわ元気バザール 開催日：奇数月第2土曜日 開催場所：藤沢駅北口サンパール広場及び湘南台アートスクエア 【辻堂市民センター】 毎月、第2・第4木曜日に市民センター中庭で朝市を開催し、地元農家による新鮮野菜・果樹等と堀川網による魚介類の即売会を開催した。	【藤沢商工会議所、農業水産課】 ●産業フェスタ 開催日：5/24, 25 開催場所：藤沢市民会館 ●ふじさわ元気バザール 開催日：奇数月第2土曜日 開催場所：藤沢駅北口サンパール広場及び湘南台アートスクエア 【辻堂市民センター】 毎月、第2・第4木曜日に市民センター中庭で朝市を開催し、地元農家による新鮮野菜・果樹等と堀川網による水産加工品の即売会を開催した。
2	(イ) 朝採り野菜の集出荷拡大による供給強化 市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場と連携し、トウモロコシ等の豆類や葉物など鮮度が極めて重要な農産物については、積極的に朝採り野菜を集出荷し、その日のうちに消費者に届けられる体制整備を促進します。	【JAさがみ】 朝採りしたキュウリ・春レタス・秋レタス・春キャベツ・トウモロコシを湘南藤沢地方卸売市場に出荷した。 【湘南藤沢地方卸売市場】 集出荷の方法については各種あるがその日のうちに店頭に並び、朝採りであることをPRした。	

ウ 藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供

【施策の目的】

市民に、旬の農水産物等の購入場所やおいしい調理の方法等の普及啓発に努めるとともに、インターネットや様々なメディアを通じて藤沢産農水産物等のおいしさと旬の情報を広く伝えます。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(ア) 藤沢産農水産物等のおいしい食べ方等の情報発信 市は、生産者や関係機関と連携し、「新鮮でおいしい・旬の藤沢産農水産物等を使用したおいしい食べ方のレシピ」「藤沢産農水産物等を使用した丸ごと使い切りレシピ」「農業者及び漁業者のとおっておきレシピ」など、様々な食べ方について情報発信します。	【農業水産課】 藤沢市広報番組のコーナー「ふじさわごはん」にて、藤沢産の旬の食材を使用したレシピを紹介した。「ふじさわごはん」で紹介されたレシピや講座で使用したレシピをおいしい藤沢産ホームページに掲載した。	【農業水産課】 おいしい藤沢産ホームページにおいて、藤沢産野菜を使用したレシピを掲載した。
2	(イ) 藤沢産農水産物等の生産情報の提供 JAさがみは、ファーマーズマーケットわいわい市のリアルタイム情報を提供するため、店長ブログで藤沢産農水産物等の生産情報やおいしい食べ方の情報を発信します。	【JAさがみ】 JAさがみホームページ「直売所ブログ」にて藤沢産農畜産物の情報発信を行った。	【JAさがみ】 JAさがみホームページ「直売所ブログ」にて藤沢産農畜産物の情報発信を行った。
3	(ウ) 「おいしい藤沢産」ホームページ等での情報発信 市は、関係機関と連携し、ホームページやメールマガジン、フェイスブックなどのSNSを活用して、旬の藤沢産農水産物等や直売所、藤沢産利用推進店、地産地消のイベント・講座などの情報を発信し、藤沢産農水産物等の魅力が伝わるとともに藤沢産農水産物への理解が深まるよう情報提供に努めます。 また、テレビやラジオなどのメディアを通じて、藤沢産農水産物等に関する情報提供を行います。	【地産地消推進事業実行委員会、農業水産課】 YouTubeに藤沢産利用推進店PR動画等を投稿した。 おいしい藤沢産Instagramによる情報発信を開始した。 SNSを活用した藤沢産ロゴマークの認知度向上を図るキャンペーンを実施した。	【地産地消推進事業実行委員会、農業水産課】 YouTubeに藤沢産利用推進店PR動画等を投稿した。 おいしい藤沢産Instagramにより、イベント情報や市内農水産物情報を発信した。

エ 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化
【施策の目的】
市内で生産される農水産物等を「藤沢産」と位置づけ、飲食店や量販店等における藤沢産農水産物等の需要拡大と安定供給を強化します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	（ア） 藤沢産利用推進店の充実 市は、「藤沢産利用推進店」登録店舗数の増加及び「藤沢産利用推進店」における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、藤沢産農水産物等の入手先情報の提供等に努めます。 また、申請手続きの負担軽減を図るため、申請手続きのオンライン化を推進します。	【地産地消推進事業実行委員会】 「藤沢駅周辺版」の内容を最新に更新するとともに、増刷した。 新たに「湘南しらす版」を作成した。	【地産地消推進事業実行委員会】 「藤沢駅周辺版」の内容を最新に更新するとともに、増刷した。 新たに「藤沢の豚肉版」を作成した。
2	（イ） 量販店等での藤沢産コーナーの設置促進 市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、商工会議所等と連携し、市内量販店等の旬の時期を中心とした藤沢産農水産物等の販売コーナー設置に取り組み、市民への藤沢産農水産物等の供給を促進します。	【JAさがみ】 イトーヨーカドー湘南台店において、なし・ぶどう・キウイフルーツ・柿の販売コーナーを設けた。	【JAさがみ】 イトーヨーカドー湘南台店において梨、ブドウ、キウイフルーツ、柿の販売コーナーを設けた。
3	（ウ） 藤沢産農水産物等の流通促進 市は、湘南藤沢地方卸売市場、JAさがみ、漁業協同組合等と連携し、藤沢産農水産物等の集荷拡大と安定的確保に努め、市内流通の促進を図ります。	【JAさがみ】 わいわい市藤沢店では、飲食店等事業者向けにインターネットを活用した予約注文システムにて藤沢産農畜産物の需要拡大を図った。 辻堂海浜公園に花苗を定植した。 4月：マリーゴールド 5, 000株 10月：パンジー 5, 000株 【文化芸術課】 藤沢市民会館庭園管理業務の一部花壇の植え替えについて、藤沢産の花弁を使用した。 【長後市民センター】 長後駅東口花壇植栽 【六会市民センター】 ①ジニア苗育成及び配布 ②パンジー苗育成及び配布 ③マリーゴールド、パンジー苗の提供	【JAさがみ】 ●Tsunaguを活用した事業者への直接販売を実施した。（ハーベストヨシケイ、マックスバリュ関東） ●新規開店したマックスバリュ関東さがみ大野店において、生産者直納販売を実施した。 【文化芸術課】 藤沢市民会館庭園管理業務の一部花壇の植え替えについて、藤沢産の花弁を使用した。 【みどり保全課】 ●一年草、観葉植物、ハーブ等を地元の生産者から仕入れて、来場者に販売し、花き等の普及を図った。また、園芸市(初夏・冬)にて地元生産者から仕入れたハイビスカス(初夏のみ)、シクラメン(冬のみ)、一年草花苗を計687株販売した。 ●地元の生産者から花壇の植栽用の一年草花苗を4,000株仕入れた。 【六会市民センター】 ●六会地区における美しいまちづくりを推進するための支援として、駅前ロータリーで市内産ジニア苗・パンジー苗の幼苗を育成し、地区内の公園・小中学校・特別支援学校、花のボランティア団体等に花苗を配布した。 また、駅周辺環境美化活動ボランティア団体である六会グリーンクラブに、市内産花苗を提供した。 ●地元の農作物やその魅力を広く周知するため、「六会ふるさとまつり」にて、地元産の卵・柿・シャインマスカットの販売をした。 【藤沢市地産地消推進協議会】 湘南藤沢市民マラソンにおいて、ランナーに対し湘南しらすを1,000食配布し、藤沢産水産物を市内外に広くPRした。

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 長期的に取り組む施策
(2)本市農水産業を維持・発展させるため継続的に取り組む施策
ア 担い手の育成支援及び確保
【施策の目的】
本市農水産業を維持・発展させるため、高齢化や担い手不足など厳しい経営環境にある都市農業と水産業を守り育てるために、担い手の確保・育成に関する取組を推進します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(ア) 農業後継者への支援 市は、農業後継者が希望と意欲をもって農業に取り組み、農業経営を安定させるため、農業後継者に対する研修や経営改善に関する取組等を支援します。	【農業水産課】 農業後継者支援事業として、充電式運搬車・乗用運搬車導入の費用の一部を補助した。	【JAさがみ】 アグリコンサルを活用し、農業後継者の経営状況の把握と課題発見、販路の提案を行った。 【農業水産課】 農業後継者支援事業として、充電式運搬車・乗用運搬車導入の費用の一部を補助した。
2	(イ) 新規参入者への支援 市は、農外からの新規参入者や新規参入法人に対し、本市農業の新たな担い手となるよう、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	【農業水産課】 新規就農者の支援・育成 ○就農相談件数 31件 ○農外からの新規参入者数 8人 ○農業次世代人材投資資金 交付対象者:7人 交付額:6,908,970円 ○経営開始資金 交付対象者:8人 交付額:9,000,000円 ○農業研修受入支援事業 交付対象:1件 交付額30,000円 ○技術習得支援事業 交付対象:5件 交付額:54,000円	【農業水産課】 新規就農者の支援・育成 ○就農相談件数 30件 ○農外からの新規参入者数 5人 ○農業次世代人材投資資金 交付対象者:2人 交付額:1,950,000円 ○経営開始資金 交付対象者:10人 交付額:14,046,000円 ○農業研修受入支援事業 交付対象:2件 交付額60,000円 ○技術習得支援事業 交付対象:1件 交付額:11,000円
3	(ウ) 農福連携による担い手の育成 市は、関係機関と連携し、高齢者、障がい者、生活困窮者、困難を抱える若者などの社会参加に対し、農業がその受け皿となり、本市農業の新たな担い手となるための仕組みを構築し、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	【農業水産課】 ・農福連携促進事業申請件数 17件	【農業水産課】 ・農福連携促進事業申請件数 17件
4	(新)(エ) 漁業の担い手の確保 市は、本市漁業の魅力発信に努め、新たな担い手の確保につながる取組を推進します。	【農業水産課】 ・市内小学校10校1,058人の片瀬漁港見学を受け入れた。 ・かながわ水産業福祉連携推進事業に参画し、海業のパンフレット折込作業を福祉事業所へ委託した。	【農業水産課】 ・市内小学校21校1,971人の片瀬漁港見学を受け入れた。
5	(新)(オ) テクノロジー導入への支援 市は、担い手の高齢化や労働力不足を解消するため、ロボット技術やICT(情報通信技術)、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)等の先端技術の活用に取り組む農業者及び漁業者を支援します。		【JAさがみ】 ドローンを活用した水稻の共同防除を行い、昨年度より散布面積を大幅に拡大し、水稻品質の向上に寄与した。
6	(カ) 援農ボランティアの充実 市は、農業に関心のある市民に対して援農ボランティア養成講座を開催することで、市民の農業への理解促進を図るとともに農家の労働力不足解消に資する取組を推進します。	【農業水産課】 ・援農ボランティア養成講座を5/15～11/16の間開催 参加者32人 ・援農ボランティア登録者数 290人	【農業水産課】 ・援農ボランティア養成講座を9/17～11/29の間開催 参加者27人 ・援農ボランティア登録者数 314人

イ 持続可能な生産環境への支援
【施策の目的】
本市農水産業を維持・発展させるため、環境負荷の軽減や水産資源の確保等の持続可能な生産環境に関する取組を推進します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	(ア) 環境保全型農業の推進・取組支援 市は、エコファーマーや有機農業者等の化学農薬や化学肥料の使用の低減等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を実践する生産者の取組を支援します。	【農業水産課】 ○濃縮ペレット堆肥導入事業(285,000円) ○環境保全型農業直接支払交付金(968,370円) 対象面積845a×1,146円 ○堆肥散布車導入支援事業(5,417,000円) ○水田保全事業奨励金(24,835,000円) 1㎡あたり45円	【農業水産課】 ○フェロモントラップ導入事業(130,000円) ○環境保全型農業直接支払交付金(1,377,600円) 対象面積984a×1,400円 ○水田保全事業奨励金(27,575,000円) 1㎡あたり48円
2	(イ) つくり育てる漁業の推進 市は、水産資源の保護・増殖を目的に、漁業協同組合や関係機関と共同して、藻場の保全に取り組み、稚魚・稚貝の放流事業を実施することで、藤沢産水産物の持続的かつ安定した供給に努め、水産業の振興を図ります。	【農業水産課】 水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 9,800個 ・ハマグリ 1,313.9kg ・マダイ 8,300尾 ・ヒラメ 11,500尾	【農業水産課】 水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 10,000個 ・ハマグリ 2,067kg ・マダイ 9,500尾 ・ヒラメ 12,000尾
3	(ウ) 農地の多面的機能の理解促進 市は、生産者及び地域住民等の団体、関係機関と連携して農業資源の適切な保全を図り、あわせて良好な自然景観や環境の形成も含めた農地の多面的機能の理解促進に努めます。	【農業水産課】 国が実施する多面的機能支払事業に取り組む活動組織に対して支援し、農地等の環境資源を活かした地域の共同活動を通じて、農地の多面的機能の理解促進に努めた。 活動組織 2組織(西俣野地区、打戻地区)	【農業水産課】 国が実施する多面的機能支払事業に取り組む活動組織に対して支援し、農地等の環境資源を活かした地域の共同活動を通じて、農地の多面的機能の理解促進に努めた。 活動組織 2組織(西俣野地区、打戻地区) 補助金交付額(2組織合計額) 農地維持活動、資源向上活動(共同活動):2,655,420円 資源向上活動(長寿命化) :2,195,761円

第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 長期的に取り組む施策
(3)関連する施策との連携

【施策の目的】
関連する施策と連携を図り、より効果的に地産地消を推進します。

No	具体的な取り組み	【参考】令和6年度取組実績	令和7年度取組実績
1	ア 公民館・地域団体等が実施する施策との連携 市は、13地区の公民館や地域団体等が実施する事業と連携を図ることにより、藤沢産農水産物等及び地産地消の理解促進に努めます。	【辻堂市民センター】 ①みんなで美化キャンペーンとして、地区内の環境美化を進めるとともに近隣の学生、地域住民が利用する歩道等の美化を推進した。12月に2回実施し、1回目はパンジー600株、2回目はパンジー100株、キンギョソウ100株、ハボタン120株を植栽した。 【御所見市民センター】 ①第33回福祉チャリティ御所見夏まつり(御所見産の米粉と荒廃農地対策として栽培しているブルーベリー畑で収穫したブルーベリーの実を使用した米粉クレープ「うえきち米クレープ」を模擬店にて販売。) ②第45回御所見文化祭(公民館まつり)(地場産農産物の普及・啓発活動として、「ごしょみ汁」を作成し模擬店で販売。また、手作りの「よしず屋根休憩所」「青竹ベンチ」を作成し、郷土の農機具等を展示。地場産農産物の普及・啓発事業として、地元御所見で栽培された「さつまいも」を使用した焼き芋の製造販売。) ③緑と花いっぱい事業((ア)少年の森駐車場前の敷地に年間を通して「ざる菊」を栽培し、ざる菊畑として市民に開放。(イ)御所見市民センター敷地内の花壇に、御所見地区での園芸農家が製造・栽培した花苗株を使用して花壇を整備。地元産業の周知活動を実施。) ④第17回小出川彼岸花まつり(打戻会場にて、式典、スタンプラリーを実施し、地元産の野菜(サツマイモ、里芋、ナス、ジャガイモ等)を配布及び販売。) ⑤女坂における花桃の育成・保全 ⑥ごしょみ～な(年間を通して火曜日はさがみ農協藤沢北営農経済センターで、土曜日は御所見市民センターで、午前9時30分から午後1時まで地産農産物等の販売。) ⑦秋のお楽しみウオークラリー(荒廃農地対策で実施している柿園にて、柿狩りを実施。参加者に、地域課題の共有化を図った。) 【遠藤市民センター】 ①第25回遠藤あじさいまつりにおいて、地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。 ②第17回小出川彼岸花まつり(遠藤会場)において地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。	【辻堂市民センター】 環境美化活動を通じて地域交流と郷土愛を育むことを目的として、辻堂まちづくり会議(辻堂地区郷土づくり推進会議)、辻堂地区生活環境協議会、高浜地域子ども支援会議が共催。12月16日は湘南ニコニコロード(辻堂1号・2号自転車歩行者専用道路)を地域住人や近隣小中学校、地域団体が参加して除草と花植え(パンジー約600株)、清掃を行った。12月20日は辻堂砂場ポケットパークを地域住人や地元高校、地域団体が参加して除草と花植え(パンジー180株、キンギョソウ180株)、清掃を行った。 【御所見市民センター】 ●田園パーク構想推進事業に基づき、御所見地区の活性化と活動促進を図るため、農地や樹林地、豊かな水系に恵まれた地域特性を生かし、四季折々の花に彩られた環境整備を図った。 ●(ア)少年の森駐車場前の敷地に年間を通して「ざる菊」を栽培し、ざる菊畑として市民に開放。(イ)御所見市民センター敷地内の花壇に、御所見地区での園芸農家が栽培・生産した花苗株を使用して花壇を整備。地元産業の周知活動を実施。 ●女坂における花桃の育成・保全事業として、地元園芸農家で生産された花桃苗木の植栽及び育成事業(花桃の下草狩り、枝下ろし等)花桃の開花時期に合わせて北部環境事業所の協力のもと女坂最終処分場駐車場を一般開放した。 ●自然豊かなふるさと「小出川」流域の自然の保全を目的として、「第18回小出川彼岸花まつり」を開催。小出川彼岸花まつり打戻会場にて、式典、スタンプラリーを実施し、地元産野菜(サツマイモ・里芋・ナス・ジャガイモ等)を配布及び販売した。 ●第1回ごしょみフェスタにて、地場産農産物の普及・啓発事業として、①地元御所見で栽培・生産された「さつまいも(ベニアズマ)」を使用した焼き芋の製造販売と②「ごしょみ汁」を作成し模擬店で販売。また、手作りの「よしず屋根休憩所」「青竹ベンチ」を作成し、郷土の農機具等を展示を行った。
2	イ 観光施策との連携 市は、観光施策と連携させた事業を実施することにより、生産者と消費者の交流促進を図るとともに、藤沢産農水産物等が広く普及するよう努めます。	【江の島片瀬漁協、観光課】 藤沢産農水産物の販売のほか、老若男女問わず楽しめるイベントを開催することで、未利用魚の認知及び活用をはじめ、藤沢産農水産物の利用促進と漁港の活性化を図った。 4月～12月において10回程実施(悪天候による中止を含む) 年間約15,000人来場 【観光課】 わくわくバス旅モニターツアーにおいて、いちご狩りやきゅうり狩りを企画した。	【江の島片瀬漁協、観光課】(一部再掲) 藤沢産農水産物の販売のほか、老若男女問わず楽しめるイベントを開催することで、未利用魚の認知及び活用をはじめ、藤沢産農水産物の利用促進と漁港の活性化を図った。また多くの観光客に楽しんでもらうための「ゴールデンウィークこどもの日祭り」を開催し、鮮魚を販売することで、藤沢産水産物の魅力をPRした。 4月～12月において実施 年6回(7日間)開催来場者延べ人数 12,621人 【観光課】 わくわくバス旅モニターツアーにおいて、いちご狩りやきゅうり狩りを企画した。
3	ウ シティプロモーション事業との連携 市は、シティプロモーション事業と連携することで、藤沢産農水産物等の魅力を高めるとともに、市民が自らその魅力の発信者になるような取組について推進します。	【郷土歴史課】 指定管理者を通じて、社会福祉法人と共同で開発した藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」を、ふじさわ宿交流館において販売取次を行った。	【郷土歴史課】 指定管理者を通じて、社会福祉法人と共同で開発した藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」を、ふじさわ宿交流館において販売取次を行った。